

憲照先生の手本ア・ラ・カルト(8)
(à la carte)

締切り 八月二十五日(必着)

昭和60年10月

愛に恐怖なり
最上の道徳
なればなり

つけペン・墨汁使用

〔解説〕



◎漢字より小ぶりに

◎本会は、今年で創立六十六周年を迎えます。昨年はコロナ禍で、世界中が混乱に陥り、本会としても過去にない大打撃を受けました。しかしながら諸先生、会員の皆様の「書」への意欲は消えることなく、時間と共に基本的活動は戻りつつあります。

◎この現状を踏まえ、今年の短期特別課題は、『原点回帰』をテーマとして、本会の創設者奥村憲照先生の手本を改めて学び直すことにいたします。お手本は、硬筆、毛筆、一般部、教育部なども合わせれば相当数あります。一種類を四ヶ月交替で掲載していく予定です。多くの方がかつて憧れた憲照先生の書と向き合うことで、書への情熱を今一度燃え上がらせていただければと思います。

◎創立七〇周年に向けて、力強く歩んで行きましょう。

★愛に…(書体Ⅱ楷書)

内村鑑三

(一八六一〜一九三〇、宗教家)

愛するということには、何らの条件がなく、したがって何らの恐怖も伴わない。それは愛が最上の道徳であるからである。最上の道徳を表すのに孔子は「道」と言い、カントは「良心」と言ったが、キリストはこれに「愛」という語を用いた。内村鑑三はキリスト教の信者であったので、愛をもって最上の道徳としたのである。

〔作品の出し方〕

▼今回は硬筆部だけに限ります。全員本会段位用紙に書いて下さい。硬筆を習っていない方も、出品は可能です。ご自由にどうぞ。

▼硬筆ならば用具は自由ですが、線美を追求のためには、つけペン・墨汁をお薦めします。

▼出品制限の対象とはなりません。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績を、作品余白にお書き下さい。

※不明な点は無記入でも結構です。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

▼月例作品と同封する場合は、必ず別のビニール袋に分け、表に「月例」「短期特別」と明記して混同しない様をお願いします。

締切り 8月25日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔变换例〕

勝 ← (勝) 同字変化
 勝
 殊 ←
 殊
 リズムよく
 与 (自)
 信 (信)

▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。

勝
下ると思えば

勝
下るのだと信じて

勝利の条件である

あら い りゅう ほう
新 井 龍 峰 書

▷用具=自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解 説〕

	結	芸
武	局	術
者	、	の
小	魂	魅
路	の	力
実	魅	は
篤	力	
	だ	

ふる た ずい えん
古 田 瑞 苑 書

▷用具=自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★芸術の：（書体Ⅱ行書）

武者小路実篤（一八八五～一九七六）
小説家・詩人

実篤は、「僕はいい画や字を見ると、自分より優れた人間がこの地上に生きていたことをはっきり知って、ありがたくなり、自分も負けてはすまないと思う」と言っています。

この言葉こそが、芸術の魅力を追求し続けた姿ではないでしょうか。

◆9月課題予告（楷書）

決意は遅くとも
実行は迅速なれ
ドライデン

★勝てる…
（書体Ⅱ行草または草書）

ハズリット（一七七八—一八三〇）
イギリスの評論家

桶狭間で今川義元の大軍を破った織田信長は、強烈な勝利への信念を持っていて、常識的な勝ち目はないにもかかわらず大勝しました。

信長には能力はありましたが、兵の数はありませんでした。しかし、氣力がそれ以上に勝っていたでしょう。

◆9月課題予告（行書）

人生一分を減省せば
則ち一分を超脱す

菜根譚

▼教範・書範Ⅱ楷書

▼師範＝行草または草書

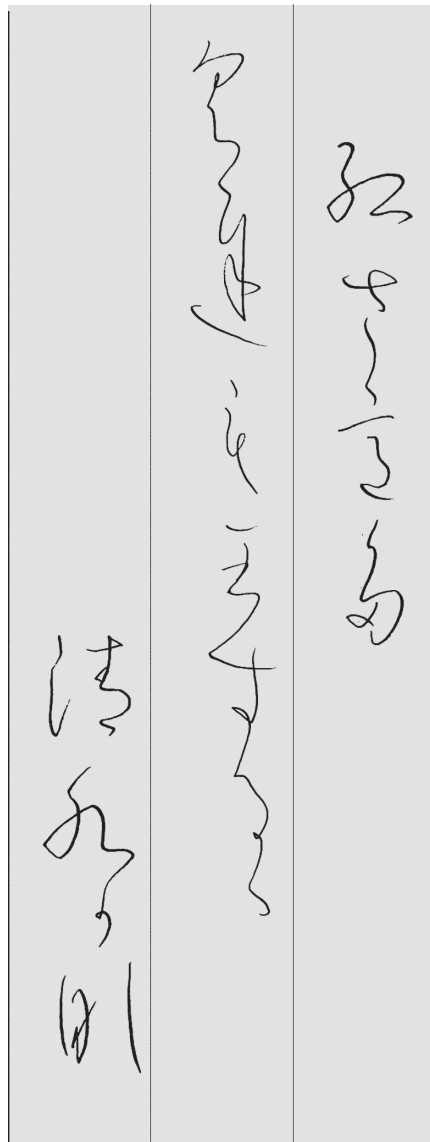
一般部かな課題

締切り 8月25日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

紅さいた口も忘るる清水かな
意多具連毛王す、可那

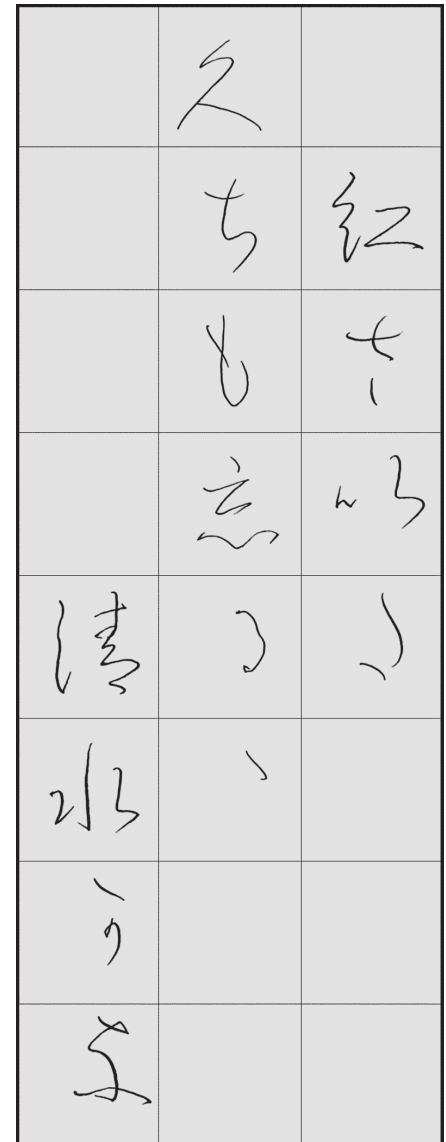


た なか き こう 書
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

紅さいた口も忘るる清水かな
以多久ち、可奈



た なか き こう 書
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

紅さいた口も忘るる清水かな
しみず

(千代女)

【句解】炎天下、人を訪問するために

きちんとした身だしなみで家を出る。

ていねいに唇に紅もさして。汗をぬ

ぐいながら行くと、山陰に清水の湧く

音が聞こえる。暑さで頭がボーッとな

り、また一刻も早く水が飲みたくて、

紅をさした唇のことなどすっかり忘れ

てしまった。飲み終わってから「し

まった」と思うのだが、もう手おくれ。

【鑑賞】暑さと清水の冷たさを表現す

る句であることは「清水かな」が証明し

ている。水ではげた口紅がいかに醜悪

であるかを気にする娘心により、炎天

下の清水の誘惑の強さを表現している。

【古筆参考】

以い 〰〰〰〰〰

意い 〰〰〰〰〰

多た 〰〰〰〰〰

具く 〰〰〰〰〰

遅ち 〰〰〰〰〰

〰〰〰〰〰

【解説】「紅」の出だしは、ペンを

突いて、ペン先を出さないようにして

書きます。

◆9月課題予告

白ぎくや籬をめぐる水の音

(勝見二柳)

締切り 8 月 25 日(必着)

川面に立つさざなみ、葦の葉には
糸とんぼが憩う好季となりました。
人気番組「プレバト」のお陰か、
この度新たに九名が入会の運びと
なりました。皆様の人生感と触れ
合うことが、とても楽しみです。

川面に立つさざなみ、葦の葉には
糸とんぼが憩う好季となりました。
人気番組「プレバト」のお陰か、
この度新たに九名が入会の運びと
なりました。皆様の人生感と触れ
合うことが、とても楽しみです。

※手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

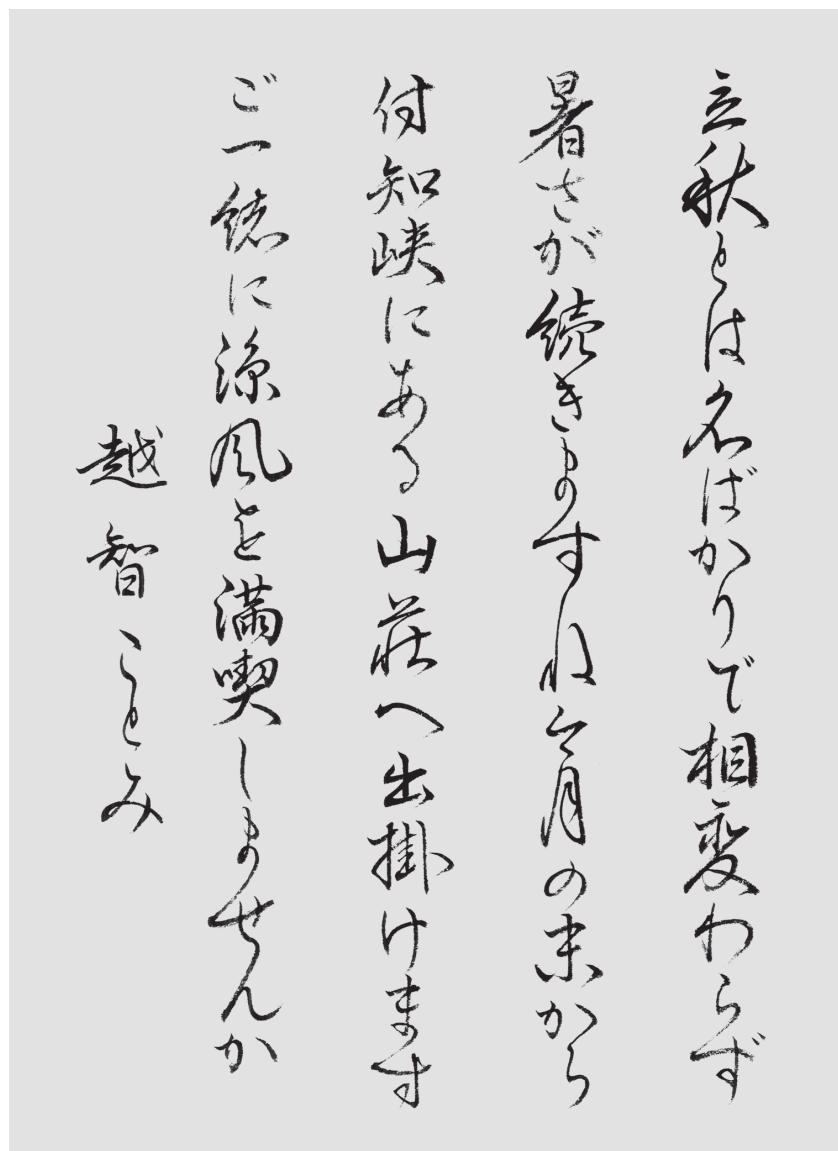
平安時代の和歌に出てくる鈴虫と
松虫は現在の呼び名と逆という。

山梨県笛吹市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

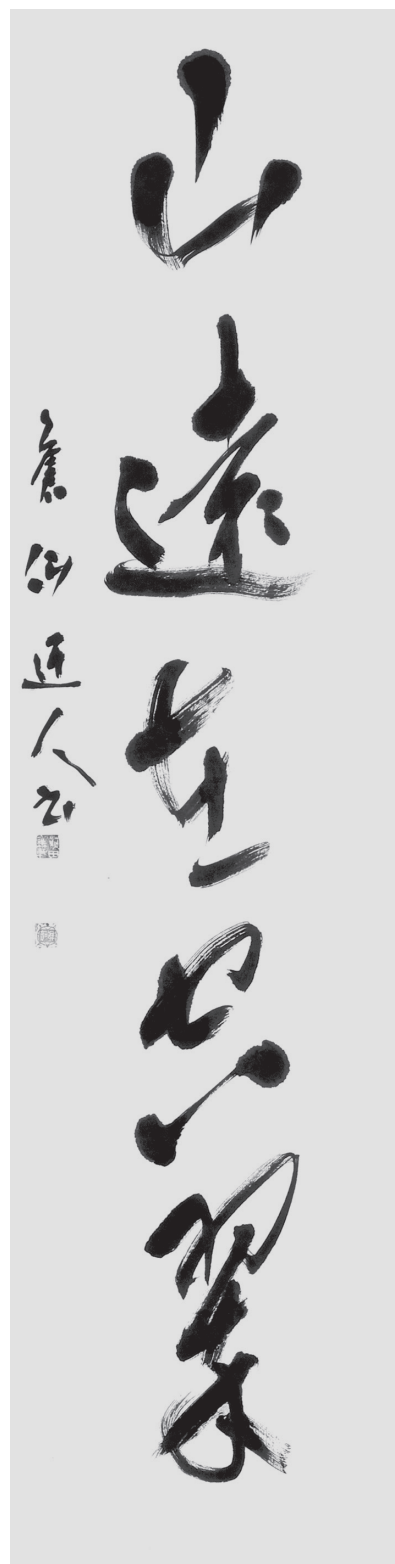
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334 mm × 240 mm)

伊 藤 梅 香 書



締切り 八月二十五日 (必着)

半切 (一三六 cm × 三五 cm)

荻 田 蒼 仙 書

山遠を空翠

孟浩然

〔大意〕空に聳えたつ山の翠の木々の間に名山がはるか遠く浮かんで見える。

初出品の方へ

支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

〔条幅解説〕

起筆を逆筆で入ると鋒先が紙に食い込み、穂先が弓状になります。この撓んだ弾力を利用して、逆方向に引くのです。これを腕に覚えこませるのです。練れた味のある線の追求を！

立秋とは名ばかりで相変わらず
暑さが続きますね 今月の末から
付知峡にある山荘へ出掛けます
ご一緒に涼風を満喫しませんか
(ご自分の氏名)
・印で墨つきしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

新入から1級まで(行書)

須田 一葉書

納涼高樹下

〔解説〕

納涼高樹下
リズムよく!

納涼高樹下
こうじゆのもじりようをおさむる

〔大意〕 高い樹木の下で涼をとる。

◎上達のポイント：縦画

縦線をすっきりと伸びやかに書くことは意外と難しいものです。

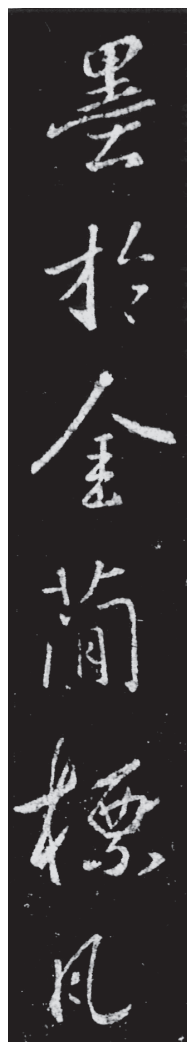
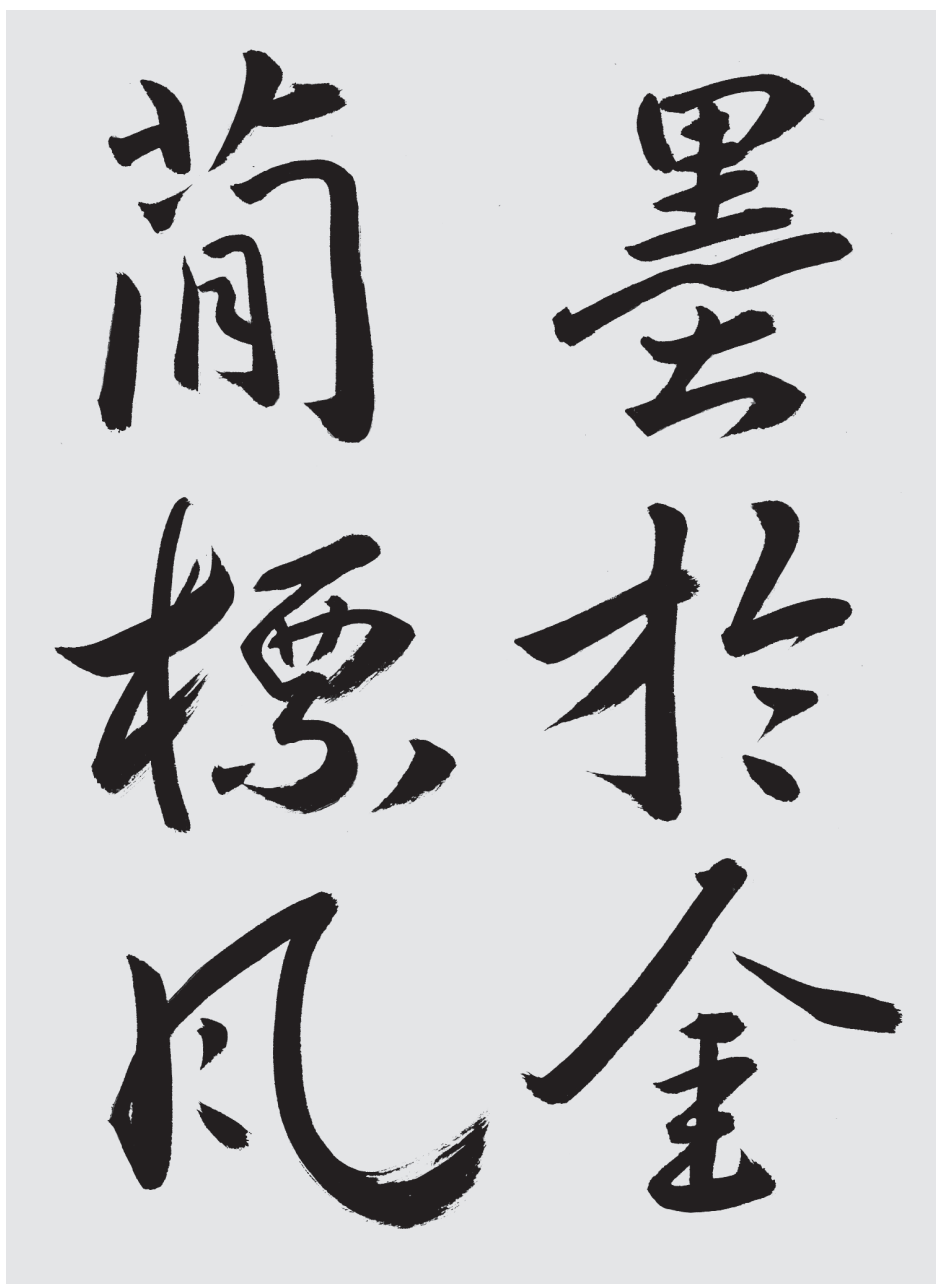
・重要なポイントは紙と体の位置関係と筆の使い方です。半紙を体の正面に置き、左肘をつかず手のひらで紙を押さえて姿勢を正し、文字を手元で書かないよう、下部は紙を高く上げます。始筆を入れたら筆を垂直に立て、到達点を定めて引き下ろします。側筆を使うとすっきりとした線が出ず、終筆も纏まりません。十、中、川、等で練習してみましょう。何度も繰り返し稽古することでコツが習得できると思います。自分の姿勢などを今一度チェックしてみてくださいよう。

◆9月課題予告(楷書)

空山野
菊新

準初段から師範まで

新井龍峰 臨



墨
於
金
簡
標
凡

筆意に注意

〔出典〕集字聖教序（六七二）

〔筆者〕王羲之法書より集字

〔読み〕（翰）墨を金簡に（穢し）瓦

（磔を珠林に）標することを。

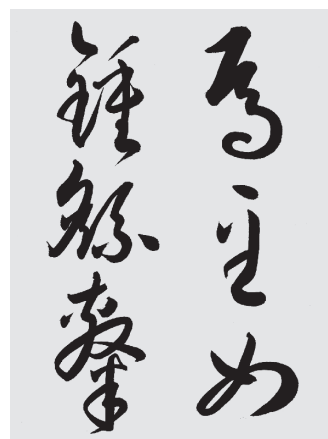
たて画は最後に

長く



暢びやかに

◆9月課題予告



新入から1級まで

浅井機山先生書

鰯雲天にひろごりはぎ咲けり

者起散介梨

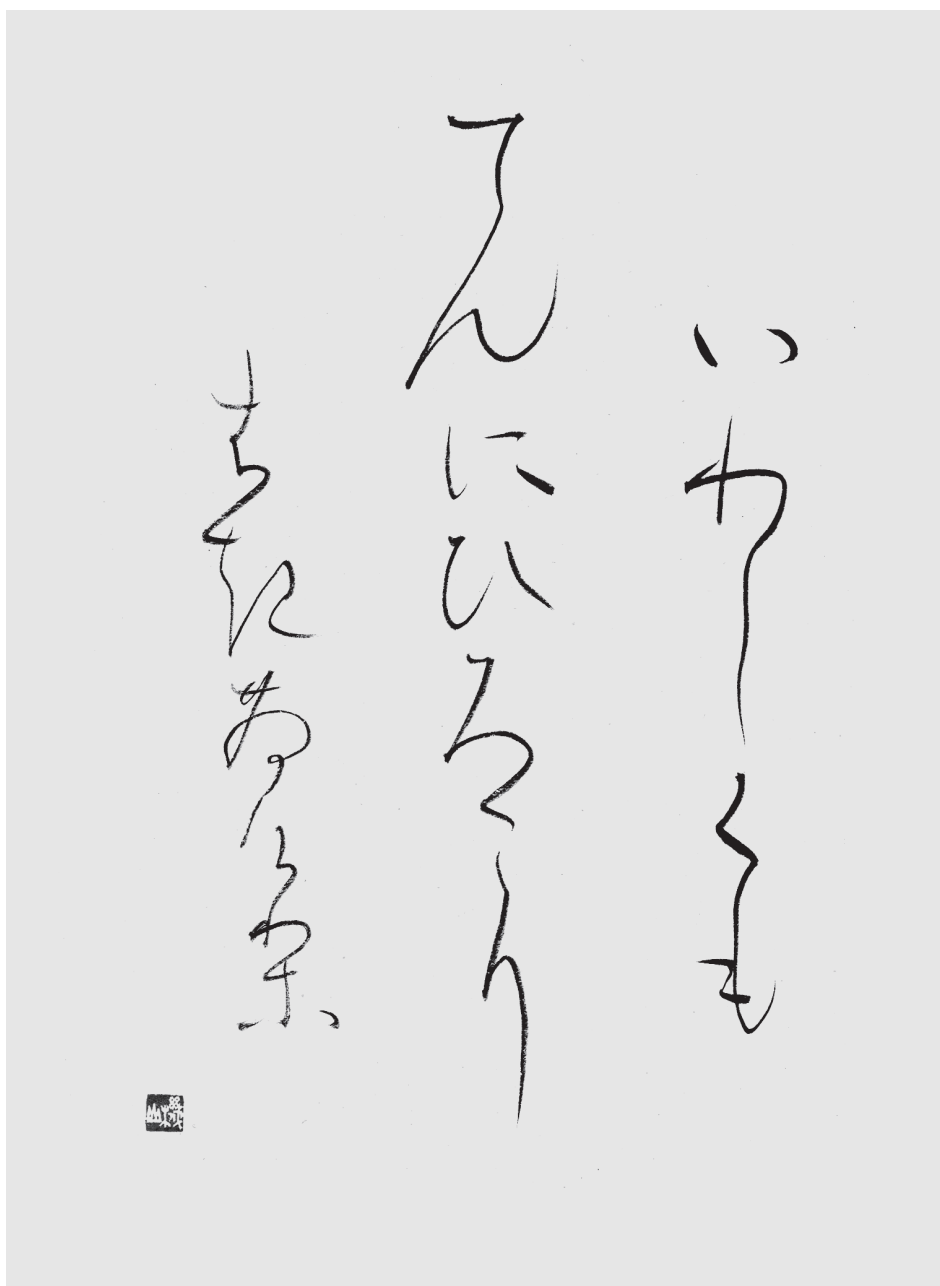
水原秋桜子

〔句意〕

秋に鰯雲が出、野に萩が咲いている。絵画的な構図にさわやかな秋の感じがよく表われている句。

◆9月課題予告

おくられつおくりつ果ては木曾の秋



〔解説〕

まず全体を見てみましょう。

3行で並んだ字数は、5字、7字、5字で書いて、最後の5字を変体仮名で書いています。

それでは、1行1行見ていきましょう。

「いわしくも」

「い」は、上空から叩くように入って、グーッと筆先のバネを使って短い第1画を引きます。いったんまた上空に上がって第2画を叩くように入って「カーブの線をゆっくり」書きます。書き終えたらまた上空に上がって、

「わ」、上空から切り込むように入って、第1画を素早く引きます。ほぼ同じ速さで第2画を書き、角で勢いよく当たってバネをかけ、少し右上がりにじっくり引き、ゆったりカーブを回って、

「し」に入り、1、2と声をかけながらだんだん長く長い「し」を書きます。「く」、じっくり上部を受けて、「も」、につなぎます。最後の2つの点は軽やかに太鼓を叩くようにして1行目を書き終えます。

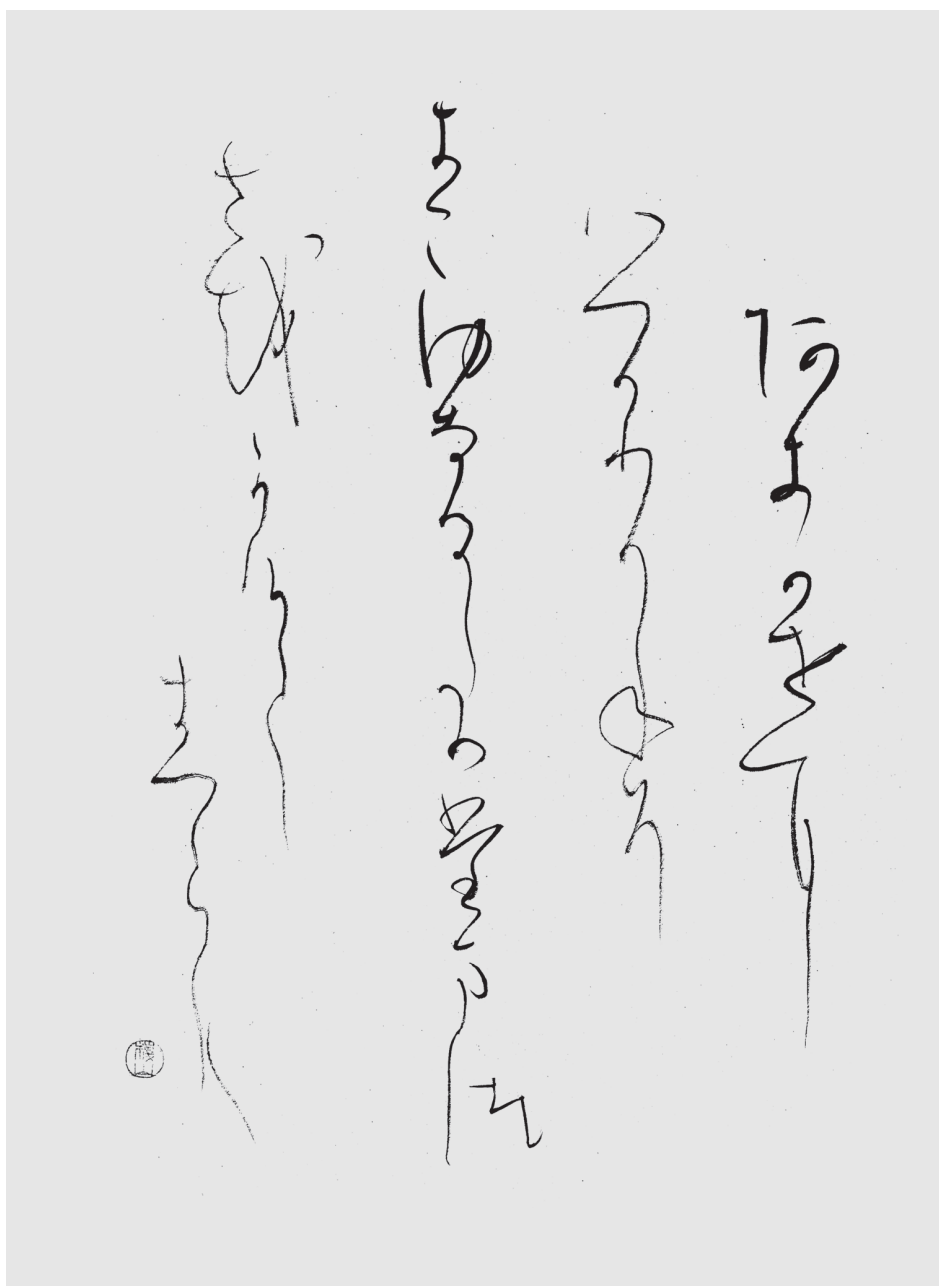
「てんにひろごり」

「てん」、直線に近いヨコ、タテ、長いナメというように、リズムを持ちながら書いていきます。難しいのは「ん」の形のところ。底になる曲線部分」をゆっくり回ることです。

ここまでうまくいけば、後はリズムに乗って自然体で書いていけばいいでしょう。

準初段から師範まで

浅井機山先生書



阿支可世耳ハ
秋風にはつ雁がねぞ聞ゆなる

多可堂万徒越可介弓支
誰が玉づさをかけて来つらむ

〔歌意〕

秋風の中に、初雁の鳴く声がさやかにきこえることだ。誰の便りをたずさえて来たのだらうか。

◆9月課題予告

石ばしる水のしら玉かず見えて

きよたき川にすめる月かな

〔解説〕

料紙は、鳥の子紙〔雁皮〕で、うすい鼠色の〔具引き紙〕です。表面に布目の模様が全体につけられ、金の砂子をばらばらと撒いています。布目模様なので、かすれてくると布目の凸凹がはっきり出てきます。これも面白さの一つです。

まず全体を見てみましょう。

行頭を見ていくと、第1行からだんだん上がっていきます。第4行でちょっと下げ、第5行はストンと下げて全体のバランスを取っています。

さて、1行1行順に見ていきましょう。

「阿支可世耳」

「阿支」、力強く書き出します。いったん空中に上がって、

「可世耳」、上空から下りて突いた毛先がくるりと回って「可」を書いたら、後はさわやかに、「耳」は伸びやかに余白へ進みます。

「八つ可利可年曾」

進むにしたがってカスレ、だんだんゆったり書いていきます。

「支こゆ奈る多可堂万徒」

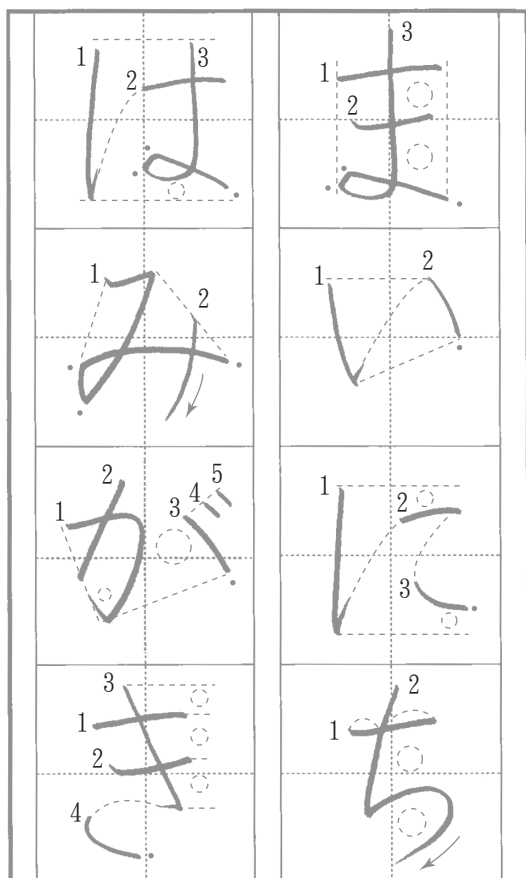
料紙の真ん中よりやや左に、上から下まで長い1行になっています。

「ゆ」や「堂」の大きく動いている字形が、大きな〔行の揺らぎ〕を作って、右左の各行の流れだけのものにパンチを食らわせているのです。

「支つらん」

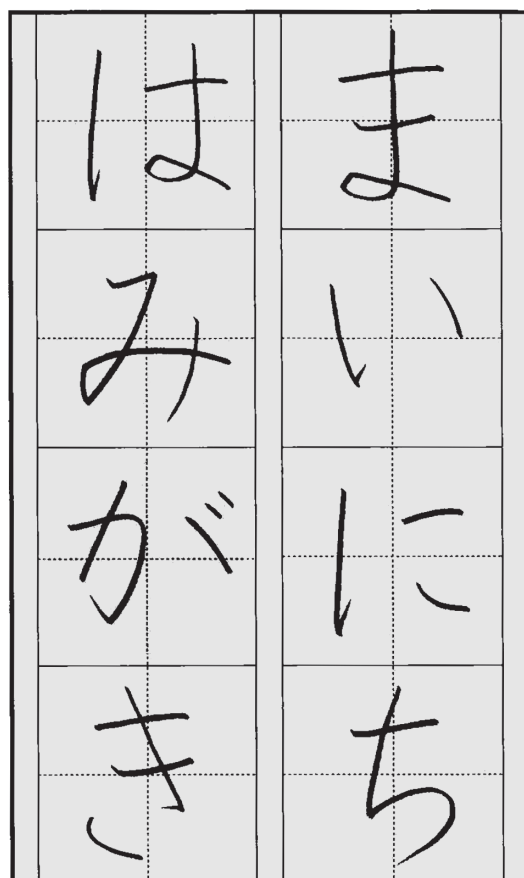
「ん」の2本の縦線、「耳」、「曾」、「徒」、「弓」の縦画は全部毛先を出して抜いた書き方をしています。

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



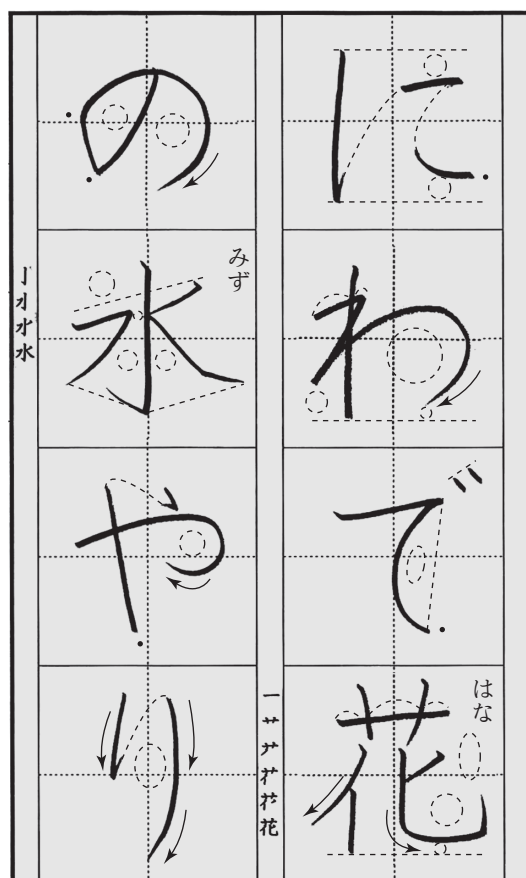
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ
う
年

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準
初
段
以
上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

く	一十立青青青	青 (あお)
つ		い
か	糸糸糸糸糸糸	絵 (え)
う		の

新入1級

の	さ	図	小二年 準初段以上
ぐ	ん	エ	
つ	青	で	
か	い	た	
う	絵	く	

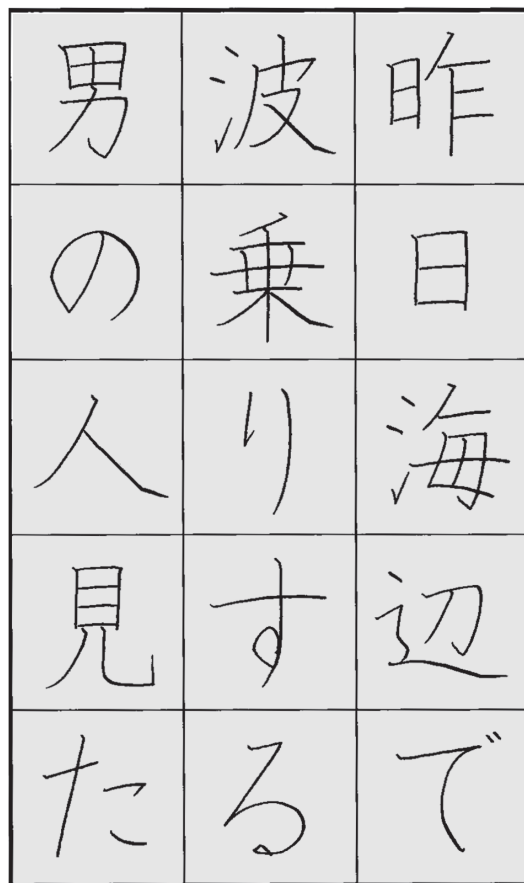
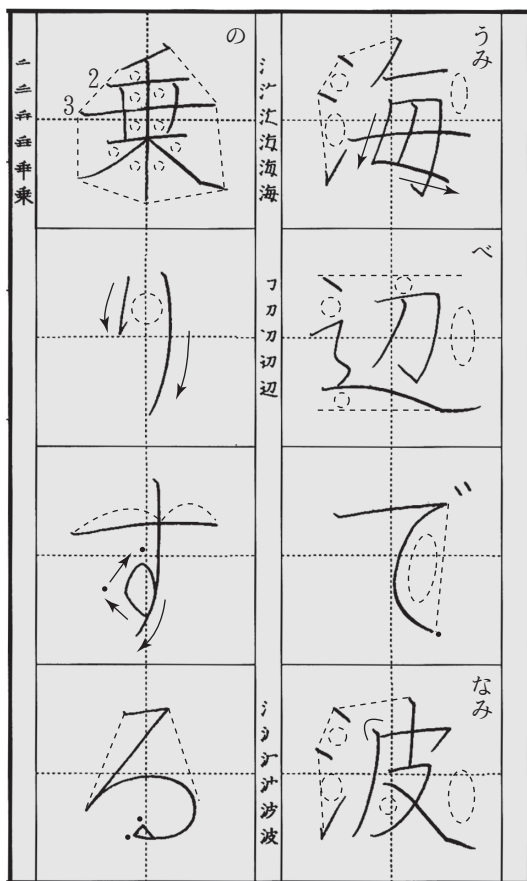
ソ	一口口口口口	町 (チヨウ)
ン	一口口口口口	肉 (ナイ)
一	イツ	マ
等	トウ	ラ

新入1級

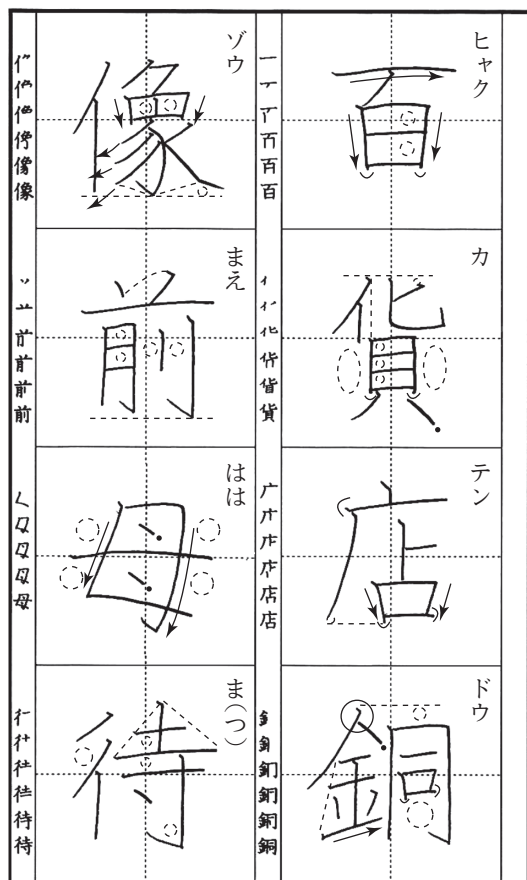
等	ン	町	小三年 準初段以上
に	大	内	
な	会	マ	
つ	で	ラ	
た	一	ソ	

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

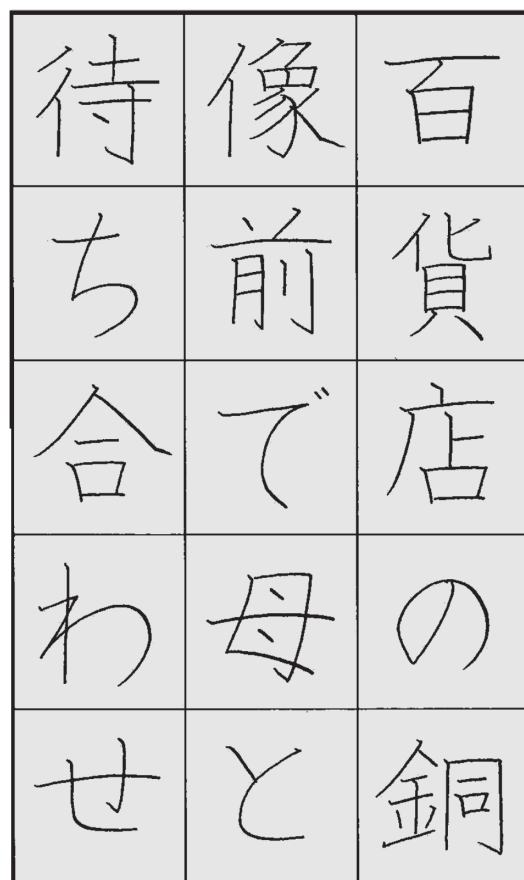
〈用具〉自由(黒色に限る)



小四年以上
岡嶋桂川書



解説(よく見て習いましょう)



小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

〈用具〉自由(黒色に限る)

一十才木本 ポ 本	ノ九 九	キユウ 九
一ナ大 ダイ 大	カ 回	カイ 回
ギヤク 逆	ウラ 裏	ウラ 裏
テン 転	ロッ 末	ロッ 末

解説(よく見て習いましょう)

大	ツ	九
逆	ト	回
転	六	裏
し	本	に
た	で	ヒ

小六年

(全員)

紹	大	第
介	切	一
し	に	印
ま	自	象
す	己	を

中二・三年

(行書)

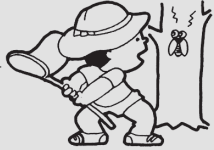
を	時	店
食	の	で
べ	か	字
涼	き	治
む	氷	金

中一年

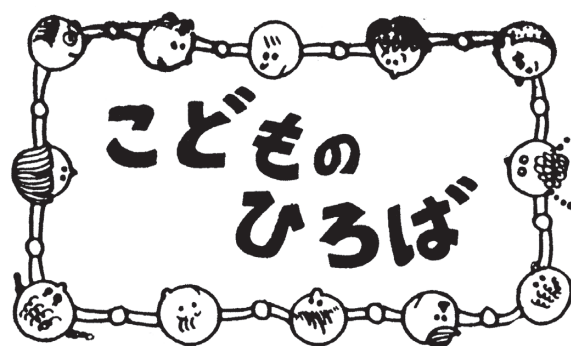
(行書)

▼小三年以下の課題 後 藤 友 泉 書

虫	歩	近	お	夏
と	き	く	じ	休
り	な	の	い	み
を	が	山	ち	は
す	ら	ま	や	
る		で	ん	
			と	



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 8月25日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 江 本 由 泉 書

静	心	山	自	母
か	の	も	然	の
な	落	川	が	田
村	ち	も	豊	舎
で	着	美	か	は
す	く	し	で	
		く		



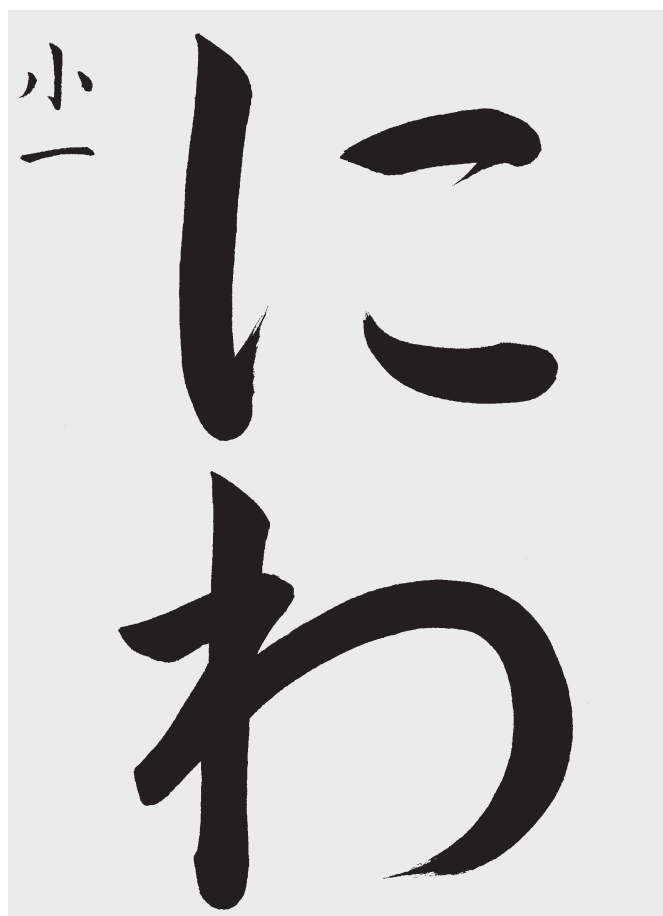
◎お手本はつけペン使用

※田舎＝単語としてこのように読みます。

◇作品の出し方

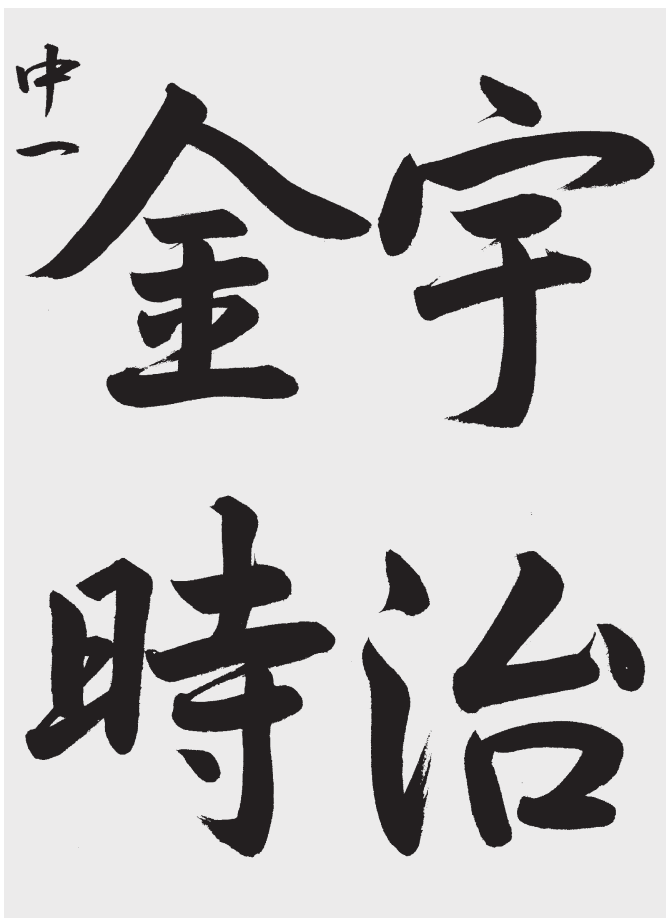
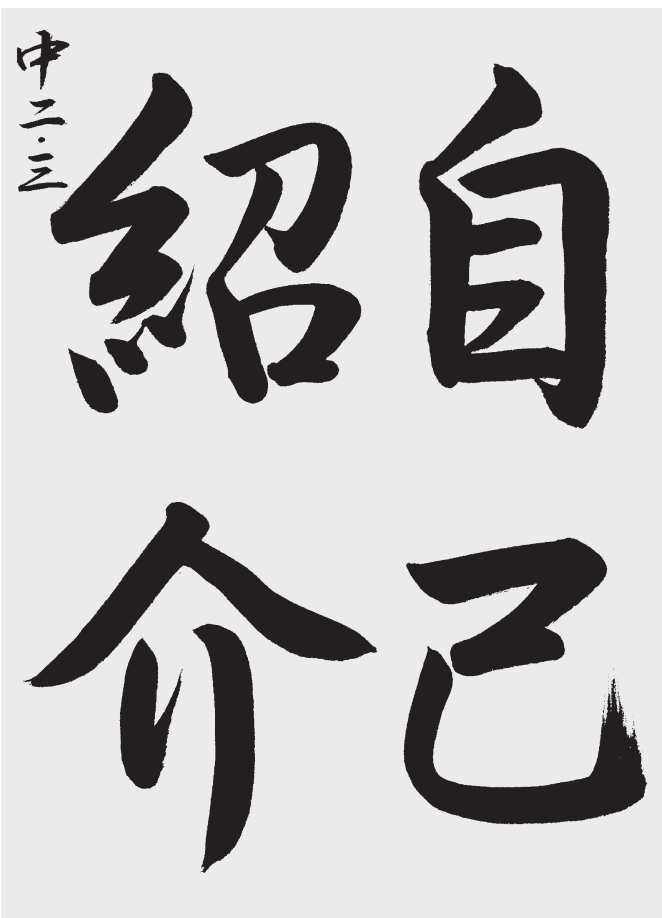
- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。







小三・小五年
水野碧友書



小六／中二・三年
玉樹小華書

※行書では画のつながりに注意しよう。